総務企画消防委員会行政視察報告書

会派名　　新生・市民クラブ
氏　名　　大　塚　正　俊

日　　程	令和元年 10 月 8 日（火）午後 1 時 30 分～5 時 30 分
場　　所	海士町役場
相 手 方	海士町交流促進課観光商工係山斗係長
参加議員 氏　　名	大塚正俊、松葉民雄、草野修一、荒木ひろ子、恒賀眞太郎、中西伸之、木ノ下素信、三重野玉江
目　　的	移住支援の取り組みについて
内　　容	**１．海士町の概要** 海士町（あまちょう）は、日本海に浮かぶ隠岐諸島の島前にあり島根県隠岐郡の行政面積 33.44 ㎢、総人口 2,280 人（2019 年 6 月 1 日）の町です。 少子高齢化による人口減少が進んでいましたが、2010 年以降はほぼ横ばい、2012 年以降は行政・町民の地域おこしの活動が実り人口が増加している。 **２．現地調査の概要** **（１）海士町、『ないものはない』宣言！【HP より】** 『ないものはない』という言葉は、 ①無くてもよい　　②大事なことはすべてここにある という２重の意味を持つ。 離島である海士町は都会のように便利ではないし、モノも豊富ではありません。しかしその一方で、自然や郷土の恵みは潤沢。暮らすために必要なものは充分あり、今あるものの良さを上手に活かしている。 『ないものはない』は、このような海士町を象徴する言葉、島らしい生き方や魅力、個性を堂々と表現する言葉として選ばれた。 地域の人どうしの繋がりを大切に、無駄なものを求めず、シンプルでも満ち足りた暮らしを営むことが真の幸せではないか？ 何が本当の豊かさなのだろうか？ 東日本大震災後、日本人の価値観が大きく変わりつつある今、素直に『ないものはない』と言えてしまう幸せが、海士町にはある。 **（２）これまでの経過** 昭和 25 年の 7,000 人から平成 27 年には 2,280 人（高齢化率

	40%）に激減。20 代から 30 代人口が低く、年間の出生数が 10 名程度となっていた。 　町の基金残高は、平成 6 年度の 15 億円から平成 15 年度には 5 億円に減少し、取り組みにより平成 29 年度には 10 億円まで回復。 　平成 20 年度には赤字再建団体になるのではとの推計を踏まえ、平成 16 年度に自立促進プランを策定し、守りと攻めの両面作戦を実施。平成 17 年度に人件費 2 億円を削減し、その 5%を子育て支援に活用し、一点突破型産業振興策を展開。 **（３）移住支援策** **①Ｉターンのための定住対策として（H16 年度～H29 年度）** ・体験住宅 22 戸、定住住宅の新築 59 戸、空き家リニューアル等 49 戸、公営住宅 8 戸、看護師住宅 3 戸、合計 141 戸を緊急整備。 ・全住宅（体験住宅を含む）234 戸…（内教員住宅 21 戸） **②少子化対策として「海士町子育て支援条例」制定（H16.10）** <財源は、職員給与カット分 5%相当を充当> ・結婚祝い金（1 カップル 5 万円の助成） ・出産祝い金（1 人目 10 万円、2 人目 20 万円、3 人目 50 万円、4 人目以上 100 万円） ・出産準備金（10 万円） ・不妊治療のための交通費助成（30 万円限度） ・18 歳以下の精密検査のための交通費助成 ・保育料は第 3 子以降無料 ・転入児童奨励金 5 万円 ・乳幼児医療適用範囲拡大（中学校卒業まで） ・頑張る子ども応援事業補助金（小・中・高生へ島外遠征費 1 人 1 万円） **③「海士ファン・バンク」の設置(H18.10)** ・出資額（1 口）50 万円、年 3%利息相当の島内産品をオーナーに、7 年後に一括返済する。 ・利用状況（H23 年 3 月末現在）30 口 1,500 万円(畜産(2 人) 600 万円、漁業(3 人)900 万円) **（４）産業振興策の効果** ・島での就職や起業、島暮らしの運動を展開した結果、 ・428 世帯、624 人のＩターン者が海士町に定住、Ｕターン 204 人 「信頼できたから」・「宝物があるから」・「職員の対応が良かった」など。（H30 年 3 月現在・定着率約 46.15%） ※人と自然が好きで、独力でチャレンジする人が多い。

	※ Ｉターンには転勤族・島前高生は含まない。 ※総人口では増えないが、活力人口が増えたことによって人口構成のバランスが良くなった。 **（５）起業等の動き** **「法人経営」** ・（有）隠岐潮風ファーム［H16.1］（畜産） ・隠岐事務センター［H16.4］（情報システム管理） ・（株）ふるさと海士［H17.3］（地場産の商品化・販売） ・海士いわがき生産（株）［H18.10］（岩がき養殖・販売） ・（株）たじまや［H19.6］（干しナマコ加工・販売） ・（株）カズラ［H19.6］（散骨葬送） ・（株）巡の環［H20.1］（メディア・ＷＥＢ制作・研修ツアー） ・（株）隠岐牛企画［H20.4］（島生まれ島育ち隠岐牛店） ・（株）島ファクトリー［H25.4］（旅行業、リネンサプライ） ・（一財）島前ふるさと財団［H26.3］（学習塾） ・（株）海士伝報堂［H26.11］（翻訳、メディア） ・（同）隠岐アイランズメディア［H27.3］（放送メディア） ・（株）隠岐牛[H28.1]（銀座にて隠岐牛を提供する和食店） ・（株）宇野[H28.4]（農林水産加工販売、旅館業ほか） **「集落・グループ・個人」** ・崎（梅干ＧＬ）［H16.11］ ・知々井（塩辛ＧＬ）［H17.12］ ・海の駅松島（干物ＧＬ）［H20.1］ ・さくらの家（ふくぎ茶）［H18.11］ ・大漁（漁協干物 GL）［H23.3］ ･島のねーさん（菓子工房）［H27.3］ **（６）今後の取り組み** 　昨年度、安定財政から連携財生へ、島の経済循環の舵を切り、これまで行ってきた諸施策の評価と検証のため、財政課を新設。 　今年度については、農林水産物をはじめとする地域資源のポテンシャルをより一層高めながら、観光振興で地域内経済の活性化を図り、外貨獲得を目指す海士町の命運をかけた海士町ホテル魅力化プロジェクトを推進するための組織・体制を整える。 　養殖いわがき春香、シロイカを主力としたＣＡＳ凍結センター、若手Ｉターン者による干しナマコ加工や新たにワカメ養殖、アカモクを活用した新商品の開発など、ソフト・ハード両面でのサポートを行うことで、魅力ある漁業の島を構築し島の水産業を支える仕組み作りを漁業者とともに計画・実施していく。とのこと。

成　　果	平成の大合併のあらしの中、単独町政を決断し、三位一体の改革による「地財ショック」により島存続さえも危うい緊急事態に直面している。この危機感をバネに島の生き残りをかけた行財政改革と新たな産業創出による攻めの政策を強力に推進している。中津市も行財政改革を取り組んできたが、その原資をいかに活用して地域振興を図るかの視点が欠落していたと考える。 海士町は、移住・定住対策として、6 産業化や起業による新たな産業の創造による雇用の場を確保している。また、子どもを産み・育てしやすい環境づくりや住宅の確保にも努めており、仕事と住居、子育て環境の整備を並行して進めていく必要がある。 また、1 次産業では、漁業の町としての海産物の加工や塩の製造、米や隠岐牛のブランド化を手掛け、東京への出荷を進めている。中津市の林業振興を図るためには、スギ・ヒノキの加工品の製造、中津市産材による建売等、儲かる林業に転換していく必要がある。 中津市との合併によって、旧下毛地域の町村は、それぞれの独自性が失われ中津市の制度に横並となってる。その結果、過疎化・少子高齢化に拍車がかかっている。今こそ、各支所単位に合併前の独自性を発揮できる財源を確保し、移住・定住促進につながる各種施策の創造にむけて「やる気と勇気」をもって取り組んでいく必要がある。